

内村鑑三自筆手稿

海峽  
自筆稿



6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7





6に2

別行

詩篇第百篇

一 全地ニ正ニホバニに向キウニ喜ビはシキニ聲ヲ揚ゲヤ。

二 欣ヨ喜シをモシニ正ニホバニにシ事ハヤ。

三 歌ウコト其ノ前ニ來レ。

知ル正ニホバニエシ神ニ事ヲ。

彼レはシ我等とシ造リ給ヘル者我等はシ其ノ屬トホリ。

我等はシ其ノ民ト其ノ草ノ苑ニ羊ヲホリ。

一行アケ

聖書之研究

第二頁下段ヲ始メ

内括弧三ノ目録を約









愛あり。イスラエルにも異邦にも。基督者  
 にも非基督者にも。彼は恩恵を施し給ふ。而  
 しこエホバの善なるや無窮であり又不變であ  
 る。憐愍は恵みと欲する熱情と云ひ。眞實  
 は其永久に變らざるを云ふ。それ故に何人も  
 エホバを讚の稱ふべきである。  
 ○信者は自己に神の恵みを充分に實驗し。欣  
 喜と感謝に溢れ、世を感らし、之に感染せしむ  
 べきである。此世に満溢する者は不平の聲が  
 あり。失望の呻息である。之を打消すに神の

~~It is good.~~

別行

我等は神の民である。其草苑の羊である。全  
 然彼に導かる。音民がある。摂理の産である。  
 ○感謝して其門に入れよ。エホバを知らざる  
 者に言ふ。エホバに來れよ。縦し我等の如くに  
 彼に事へざるとも。縦し彼の僕。其羊たざると  
 も。其門に入り。其大庭に來りて。彼に感謝  
 を献げ、其聖名を讚のよ。縦し我等の如くに  
 其深き聖旨を知るの恩恵に與らざるとも。天地  
 の聖殿の大庭よりエホバの聖名を讚の奉れよ。  
 ○それはエホバは恵み深し。其性は善あり。彼

別行





民の讚美の聲を以てせざるべからず。我等に  
 しと喜ばざらん手、誰か欣ばらん。  
 民の讚美は直  
 き者に適はしきありとあるが如し。  
 節。我等は我國と全世界とを讚美化するの責  
 任を擔ふ者である。  
 ○欣喜と感謝は基督教の基調である。信者の  
 生涯を通じて一貫する者は感謝である。美  
 き事と悪しき事も感謝の種である。人生最大  
 の感謝は神我と偕に在し給ふ事である。汝神  
 を有す。亦何をか要せん」とあるが如し。

三頁ヲ終ル



